

男 結 び

お祭りなどで、鯨背な若い衆が細く巻いた手ぬぐいをきりりと頭に巻いている姿を見かける。その結び目を見ると二本の端がピンと立っていてなんとも格好いい。

この結び方が「男結び」である。本結び（真結び・細結び・女結び）や縦結びとよく似ているのだが、全く別の結び方である。



本結び



縦結び



男結び

上の3つの結び方は左右のロープが折り返した中に、互いに相手のロープを包み込むようにして結んでいるのだが、それぞれの特徴を持っている。

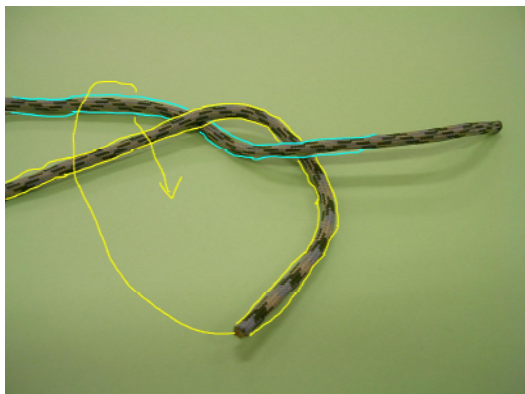
- ・ **本結び**は、相手のロープに対して「ひばり結び」を掛けた状態である。左右を引っ張ると互いに締め付け合うことでしっかりとした結びができる。

- ・ **縦結び**は、本結びをするときによく間違えてしまう結び方で、内側同士を合わせるべきところを外側同士で合わせてしまう結び方である。しっかり結んだときには左右の端は結び目から上下に飛び出すようになるので縦結びと呼ばれる。強く締めても、締まりが悪く解けやすい難点がある。

- ・ **男結び**は本結びと似ているが、左右のロープの出方が対角になっていて、ロープの端をしっかり押さえるようになっている。

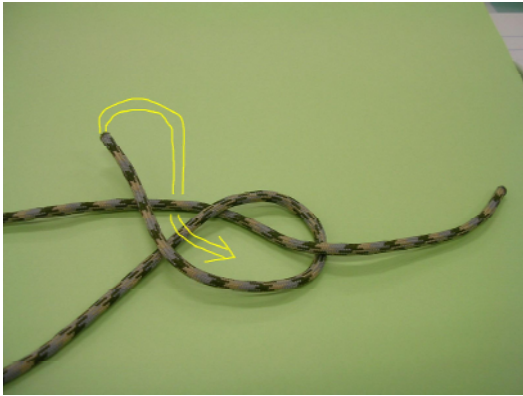
（垣根結びは柵などをまとめるときに使われる、**男結び**と同じ結び方である。）

男結びの結び方



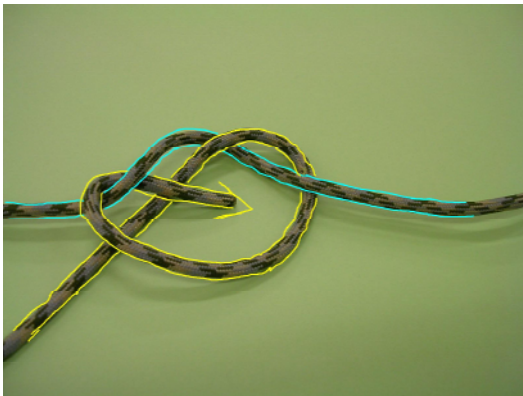
本結びや縦結びのようにロープの端を向かい合わせるのではなく、同じ向きに重ねます。

重ねが上になった方（黄）で、もう一方ロープ（青）の端をくぐり、さらに左側もくぐります。



上で説明したことと同じことを示しています。

実際に結ぶときには両手を使いますので、手順は容易だと思います。



垣根結びと同じなのですが、モノを束ねるのではなく、はちまきを作るときなど、このようにすると結びやすいと思います。



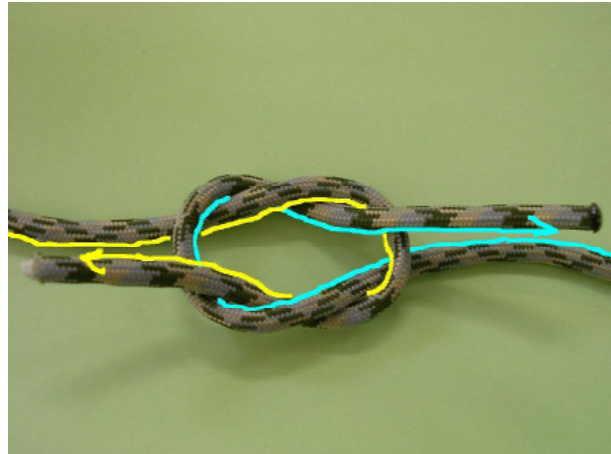
青と黄の端を押さえておき、輪になった方のロープを締めれば、男結びができています。

結び目を見ると、対称軸を持った綺麗な形に構成されていることがわかります。



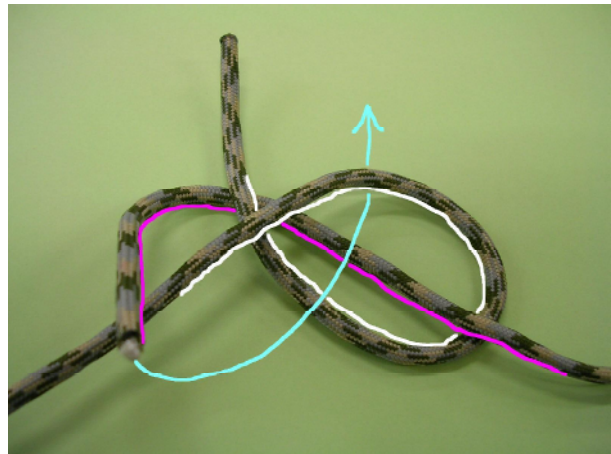
構造を見てみると

互いに輪の中で交差している。
端は輪の同じ側から出てきている。
ロープを引くと、2本のロープの端を芯に
して互いに締め付けている。



別の見方をすると

白い輪の中に赤いロープの端が入り、白
いロープの交差したところを通して、白い
輪を逆にくぐって出てくる。



XRQTechLab (C) 2014